

PIステップ3実施報告書

- 目 次 -

I.	PI 活動の評価方法	1
1.	評価の対象	1
2.	評価の視点	1
3.	評価方法	2
II.	PI 評価委員会で頂いた助言とPI ステップ3での対応	3
1.	PI 活動に対する助言とPI ステップ3での対応	3
III.	PI ステップ3の活動と評価	7
1.	活動評価	7
(1).	PI 活動は適切に行われたか	7
(2).	提供した情報が周知されたか	14
(3).	提供した情報が理解されたか	21
(4).	幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	23
2.	まとめ	35
(1).	視点毎のPI ステップ3活動の評価	35
(2).	PI 活動の総合評価	35

I. PI 活動の評価方法

PI 活動の評価方法については、PI の実施主体である那覇空港調査連絡調整会議が作成した PI 実施計画に定めており、PI ステップ3についてもステップ1、2と同様の方法により PI 活動の評価を実施する。

1. 評価の対象

各ステップで実施する総合的な調査に関する広報・周知活動及び情報提供・意見収集活動と、これらの活動を通じて収集した意見への対応について、評価対象とする。

2. 評価の視点

PI 活動の評価では、大きく「PI 活動の実施内容」、「PI 活動の結果」の2段階に分けて評価することとし、これらの各段階に対応する4つの視点を設定する。
具体的には、「PI 活動の実施内容」では、その「適切性」と「情報の周知」を評価し、「PI 活動の結果」では、活動の結果を「情報の理解度」、「意見収集及び意見への対応」に分けて評価することとする。

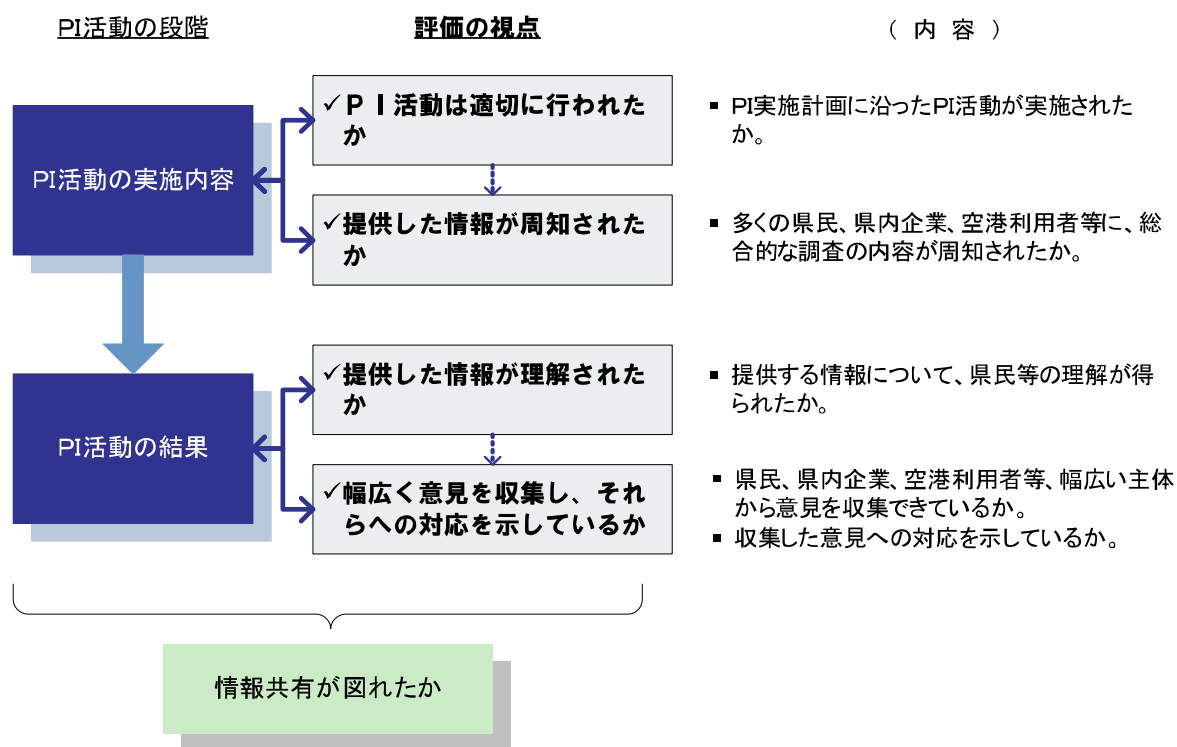


図 1 各ステップの PI 活動における評価の視点

3. 評価方法

PI 活動の評価では、図 1 に示す 4 つの視点で評価を行う。
各視点の評価は、「PI 活動の実績」、「参加した県民等の人数」、「意見を寄せた県民等の構成」等、客観的な情報に基づき行うことを基本とする。

表 1 各ステップの PI 活動の評価方法

評価の視点	評価方法
1)PI 活動は適切に行われたか	・ PI 実施計画と比較し、「計画どおりに活動が実施されたかどうか」(適合性)について評価します。
2)提供した情報が周知されたか	・ PI 活動への県民等の参加状況、マスメディアによる報道状況を把握し、提供した情報が「多くの県民等に周知されたか」(情報の周知)について評価します。
3)提供した情報が理解されたか	・ 提供情報に関する県民等の理解度について評価します。
4)幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	・ 意見を寄せた県民等の構成(参加者の多様性)、寄せられた意見の内容(意見の多様性)を分析し、「幅広い層の県民等から多様な意見を収集できているか」について評価します。 ・ 合わせて、寄せられた意見に対して、「対応が示されているか」について評価します。

II. PI 評価委員会で頂いた助言と PI ステップ 3 での対応

1. PI 活動に対する助言と PI ステップ 3 での対応

ステップ 3 の PI 実施に当たり、これまでに那覇空港調査 PI 評価委員会で頂いた助言を踏まえ、PI 活動への対応を検討・整理し、ステップ 3 の PI 活動に反映することとした。

表 2 那覇空港調査 PI 評価委員会による主な助言と対応策

PI の実施に関すること

分類	PI 評価委員会での主な助言	PI ステップ 3 での対応	対応掲載ページ
PI の進め方	<ul style="list-style-type: none"> PI の目的や対象を考慮したうえで、ステップ 2 での周知手段（メディアやコンテンツ等）を分析し、ステップ 3 に活かしていく必要がある。 行政番組や説明会を繰り返し続け、ホームページを常に更新するなど、長く積み重ねていくことが、理解をしてもらう上では一番効果が出てくる。広告よりも情報提供に力を入れるべきではないか。 意見数の増加は喜ばしいが、報告書の内容とあまり関係のない意見も増加している。PI の意図する所から若干違う方向に向かっているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 2 では、その場でアンケートに回答することが可能な説明会やオープンハウス等での意見収集が最も効果が高かった。一方、テレビ CM や空港内 CM（ウェルカムホールの大型ビジョン）については費用に見合った効果は得られなかった。 以上の結果を踏まえ、ステップ 3 での対応を次のとおりとした。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 情報を幅広く提供するため、地域住民や県内団体に対しては説明会の頻度を増やすとともに、オープンハウス、パネル展などを全県的に実施した。 ➢ 空港利用者に対しては、報告書を容易に手に取れるよう、空港内の設置箇所を増やした。 ➢ CM 放送は費用に見合った効果が期待できないことから、ステップ 3 では実施を見送った。 	P9 ~ 12
テレビ CM の使い方	<ul style="list-style-type: none"> テレビ CM は PI を理解させるためのものではなく、周知させるためのもの。CM の効果を高めるには、一定期間に集中して放映するなど工夫が必要。 		

分類	PI 評価委員会での主な助言	PI ステップ3での対応	対応掲載ページ
報告書の設置箇所	<ul style="list-style-type: none"> 飛行機内に報告書を置けば、飛行機を利用する方は直接目にするので効果が高い。関心の薄い方には、広報誌や公民館の活用など、地道な活動が必要。 機内に報告書を置くアイデアはとてもいいが、飛行機自体が沖縄と関係のない地域も飛ぶようになってきているので難しい。確実な方法として、那覇空港と結ぶ県内の空港に設置するという方法がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 那覇空港と路線を結ぶ県内空港に協力を頂き、報告書の設置箇所を設けた。 	P10
インターネット広報	<ul style="list-style-type: none"> 情報を得る方法として、最近ではインターネットが主流。HPのアクセス数が昨年の半分程度になってしまった原因を分析し、航空会社のHPにバナーを貼ってもらう等、アクセス数を増やす方法を検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> アクセス数半減の原因については、リピーターの減/更新回数が少ない等が考えられるが、特定することはできなかった。 多くの人に情報を提供できるよう、被リンク数を増やす/県のトップページからのリンクが可能なようにする等の工夫をした。 	P12
PI 実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 目標値を決めると、行政はなんとかしてかき集めてくる。目標値を決めない方が、自然な意見が集まるのでは。 できるだけ前回は上回る関心をお寄せいただけよう、努力してもらいたい。 昨年度よりきちんと周知する方法になったという感じはする。ステップ3なので、PIを実施しているという事よりは、その内容を広めるという意味で、このような実施計画で良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を幅広く提供するため、地域住民や県内団体に対しては説明会の頻度を増やすとともに、オープンハウス、パネル展などを全県的に実施した。 空港利用者に対しては、報告書を容易に手に取れるよう、空港内の設置箇所を増やした。 	P9～12

報告書・アンケート用紙のとりまとめ方

分類	PI 評価委員会での主な助言	PI ステップ3での対応	対応掲載ページ
調査報告書概要版のポリシー	<ul style="list-style-type: none"> 概要版がもう少し概要でもよかった。幅広く意見を聞くのであれば、一般の方が読みやすいよう工夫をすべき。 事務局としてはアンケートにある10項目の質問の中身を理解して欲しいのだから、やむを得ない感はある。情報提供の質を落として正しい情報が伝わらないというのでは問題。幅広く意見を聞くことと相反するが、できるだけ簡略化しつつ情報の質を落とさないよう努力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ3では、滑走路増設案等について情報を提供することから、内容はより専門的にはなるが、できるだけ簡略化しつつ、伝えるべき情報は伝えるという方針で、調査報告書3概要版をとりまとめた。 	-
貴重種の記載	<ul style="list-style-type: none"> サンゴ、藻場等で確認された生物が列挙されているが、その生物が貴重種であるかどうかなど分かるよう示すべきでは。 方策を実施するとしたら、どのような貴重種に影響があるのか。報告書を読む人はそこが知りたいと思う。この部分には貴重種を挙げた方がよしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「那覇空港の調査報告書3」は、県民の方が読みやすいように、情報量をできる限り絞ってとりまとめる必要があることから、同調査報告書には、数多い貴重種の中から代表的な種または特徴的な種のみを記載し、詳細については別途HPに掲載した。 	-
報告書の修正、追記等	<ul style="list-style-type: none"> 発着回数は順位付けでの評価に対し、地上走行距離は現況に対する倍数での評価となっている。地上走行距離は長くなり、発着回数はあまり伸びない、という印象を与えかねない。 航空会社は、燃料に影響する地上走行距離に関心があるとは思いますが、一般人には、走行距離ではなく時間の方が分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 発着回数の評価方法を順位から数値へ変更し、他の指標と表現方法を統一した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> 経済効果の規模が分かりにくい。沖縄の観光収入等の比較できる額を示したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年の沖縄の観光収入(3,983億円)を追記した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど文字だけのページについては、図解を入れるなど視覚的に分かりやすいよう工夫してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字が多いページには図や挿絵を入れ、分かりやすく表現するよう努めた。 	-

分類	PI 評価委員会での主な助言	PI ステップ3での対応	対応掲載ページ
報告書の修正、追記等	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後の那覇空港のあり方」というと、既に結論が出ているような印象を与えかねない。どちらかというと「那覇空港を取り巻く環境」ではないか。 ・「これからの那覇空港についてあなたの声を下さい」というのを前面に出した上で、関連情報として那覇空港を取り巻く環境を整理した方が良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの那覇空港についてあなたの声を下さい」を見出しにして、那覇空港をとりまく状況を整理し、より多くの意見が集まるよう配慮した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書と概要版の章立てが異なるので戸惑う。形式はできるだけ共通性をもたせつつ、わかりやすいよう工夫してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書と概要版の形式をできるだけ合わせ、分かりやすく表現するよう努めた。 	-
アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの設問は、「検討したこと」が理解できたかどうかではなく、「検討した結果」が理解できたかどうかを聞くのが本来の趣旨であり、表現が少しおかしくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの設問を、「検討した結果」が理解できたかどうか聞くように表現を訂正した。 	-

III. P I ステップ 3 の活動と評価

1. 活動評価

(1). P I 活動は適切に行われたか

活動結果

ステップ 3 では、情報提供及び意見収集を 2 か月間(平成 19 年 8 月 29 日～10 月 28 日)実施した。ステップ 3 は、那覇空港の総合的な調査の最終段階であり、那覇空港の将来対応方策についての方向性を決める重要な段階となることから、幅広く情報提供・意見収集を行うため、PI 実施計画に基づき様々な取り組みを行った。

周知・広報活動については、県民等の PI への参加を促すため、PI 開始前だけでなく PI 実施期間中においても、できる限りラジオ、テレビの行政番組を活用するとともに、ステップ 3 では新たに、多くの方が集まる大会等に積極的に出向いて調査報告書を配付したり、また、より多くの方々の興味を引くため空港の搭乗待合室に広告ポスターを掲示したり、県内 9 空港やコンビニエンスストアに協力を頂き、報告書の設置箇所を設ける等、様々な取り組みを実施した。

行政広報誌への記事掲載については、県内の全市町村に協力をお願いし、ステップ 2 より 7 市町村多い 20 市町村の協力を得て、沖縄総合事務局や県、市町村の広報誌に意見募集等記事を掲載した。

情報提供・意見収集活動としては、より幅広く県民等に参加していただくため、行政施設だけでなくモノレール駅やトランジットモール、商業施設等において、日時も考慮してパネル展示やオープンハウスを数多く実施するとともに、また、要望があれば個別団体等に対しても出向いて説明を行う等積極的に取り組んだ。その結果、パネル展示やオープンハウスは 36 か所(ステップ 2 : 8 箇所) 説明会や懇談会は 37 回(ステップ 2 : 8 回) 実施し、ステップ 2 を大きく上回った。

PI 活動を知った情報メディアに関するアンケートの結果で、最も多かったのは 21.3% の「周囲の人から」(ステップ 2 : 6.2%)、「その他」(ステップ 2 : 7.8%) となっており、ステップ 2 で最も多く選択された「報告書の入手場所」は、3 番目(20.1%、ステップ 2 で : 49.7%) に多い結果となった。

「周囲の人から」が大幅に増加した要因としては、ステップ 3 では、可能な限り多くの方へ情報を提供するため、説明会等において調査報告書を余分に配付し、家族や周囲の方々へ周知していただくよう協力をお願いしたこと、また、オープンハウスに前回よりも多くの方が訪れたことから、その方々が更に周囲の方へ伝えていったのではないかと考えられる。

また、オープンハウス等に参加して活動を知った方にとって、アンケートに「オープンハウス」等の選択肢が無かったことから、「その他」を選択した方が増加したと考えられる。

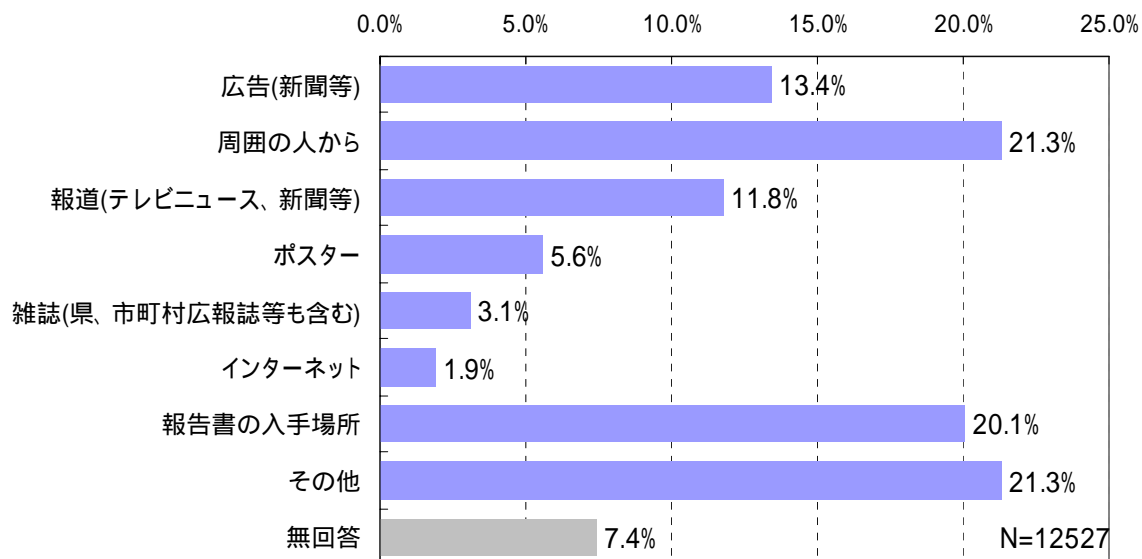


図 2 PI 参加者が PI 活動を知った情報メディア等（複数回答可）

：各イベントの参加者、調査報告書（概要版を含む）を受け取った県民等、ホームページを閲覧した県民等を対象に実施したアンケートの結果より作成

表 3 ステップ3で実施したPI活動の実施状況

1)PI開始の周知・広報

手法	実施内容		PI ステップ2 実施内容
行政広報誌への記事掲載	23誌	<p>定期的に配布する広報誌に、PI活動を周知する記事を掲載した。</p> <p>沖縄総合事務局：1誌（9月号） 沖 縄 県：2誌（8、9月号） 市 町 村：20誌¹（8～10月号）</p> <p><small>1 那覇 宜野湾 浦添 名護 糸満 沖縄 豊見城 うるま 本部 恩納 嘉手納 北谷 北中城 中城 西原 与那原 南風原 南大東 伊是名 八重瀬</small></p>	16誌 総合事務局：1誌 沖縄県：2誌 市町村：13誌
新聞への記事掲載	開始前1回 実施中3回	<p>県内の主要紙に、PI活動を周知する記事を掲載した。</p> <p>8/29 沖縄タイムス、琉球新報 9/26 沖縄建設新聞 10/1,2 沖縄タイムス、琉球新報 10/15 沖縄タイムス、琉球新報</p>	開始前1回 実施中1回
空港、公共施設等でのポスター掲示	1,500枚	<p>空港、市町村の公共施設等で、PIを周知するためのポスターを掲示した。</p> <p>公共施設：540枚 各種団体の施設等：706枚 PI会場等：254枚</p>	1,000枚掲示
ホームページへの情報掲載	PI期間中	<p>那覇空港調査連絡調整会議（県、沖縄総合事務局、大阪航空局）のホームページで、PI開始を公表するとともに、「那覇空港の調査報告書3」及び「調査報告書3概要版」をステップ1、2の調査報告書とともに、PI活動終了時まで継続して掲載。</p>	PI期間中
PI開始式の実施	1回	<p>国、県、市の参加によるPI開始式を開催し、PI開始の周知を行った。</p> <p>8/29 県民広場（県庁前）</p>	1回
県政テレビ番組の活用	民放3局・各1回	<p>県政テレビ番組「うまんちゅひろば」を通じて、PIの周知を行った。</p>	民放3局・各1回
行政ラジオ番組の活用	54回	<p>行政ラジオ番組「ラジオ県民室」、「那覇市民の時間」、「FMたまん」を通じて、PIの周知を行った。</p>	7回
各種大会、会議等での呼びかけ	9回	<p>県内で開催された各種大会等で、直接的にPIの周知を行った。</p> <p>各種大会等（5回） 自治会長会（4回）</p>	

2) 情報提供・意見収集

手法	実施内容		PI ステップ2 実施内容
調査報告書の配布	16,139 部	PI ステップ3の調査結果等を分かりやすくとりまとめた報告書を作成し、行政の情報窓口、空港等で配付した。 国、県、市町村の公共施設 : 4,394 部 各種団体 : 2,510 部 県内空港、モノレール駅等 : 2,650 部 オープンハウス等PI会場 : 6,585 部	5,710 部配布 1,926 部 999 部 1,410 部 1,375 部
調査報告書(概要版)の配布	77,235 部	PI ステップ3の調査結果等を分かりやすくとりまとめた報告書の概要版を作成し、行政の情報窓口、空港等で配付した。 国、県、市町村の公共施設 : 18,824 部 各種団体 : 18,729 部 県内空港、モノレール駅等 : 11,388 部 オープンハウス等のPI会場 : 23,294 部 各種大会 : 5,000 部	21,473 部 配布 11,035 部 3,157 部 5,200 部 2,081 部 -
パネル展示	10 か所 (延べ165日)	県民が気軽に訪れることの出来る場所で一定期間パネル等を用いて情報提供を行った。 那覇空港 北側ギャラリー、南側ギャラリー : 9/1～10/28(計118日) 南風原町役場 : 9/3～9/7(5日間) 西原町役場 : 9/3～9/7(5日間) 石垣市役所 : 9/10～9/14(5日間) 宮古空港 : 9/17～9/21(5日間) モルル県庁前駅 : 9/4～9/13(10日間) モルル古島駅 : 9/18～9/21(4日間) モルルおもろまち駅 : 9/25～9/28(4日間) モルル首里駅 : 10/1～10/5(5日間) モルル小禄駅 : 10/9～10/12(4日間)	3 か所(延べ103日) 那覇空港 石垣市役所 宮古空港

手法	実施内容		PI ステップ2 実施内容
オープンハウス	26 か所 (延べ 172 日)	<p>県民が気軽に訪れることの出来る場所で一定期間パネル等を用いて情報提供し、意見収集や意見交換を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 沖縄県庁 : 8/29～9/28(21日) 2. 那覇空港 ウェルカムホール : 9/1～9/28(28日) : 10/12～10/25(14日) 3. 八重瀬町役場 : 9/10～9/14(5日) 4. 沖縄県男女共同参画センター ているる : 9/18～10/2(10日) 5. 浦添市役所 : 9/18～9/21(4日) 6. 与那原町役場 : 9/19～9/26(5日) 7. 糸満市役所 : 9/25～10/1(5日) 8. 豊見城市役所 : 10/1～10/5(5日) 9. 名護市役所 : 10/1～10/5(5日) 10. 北谷町役場 : 10/2～10/9(5日) 11. 南城市役所 : 10/3～10/10(5日) 12. うるま市役所 : 10/9～10/15(5日) 13. 嘉手納町役場 : 10/9～10/12(4日) 14. 金武町役場 : 10/10～10/16(5日) 15. 那覇市役所 : 10/15～10/19(5日) 16. 宜野湾市役所 : 10/15～10/19(5日) 17. 県立図書館 : 10/17～10/22(6日) 18. トランジットモール(パレット久茂地前広場) : 9/16・30・10/14・21(4日) 19. トランジットモール(テラス館前広場) : 9/16・30・10/14・21(4日) 20. プラザハウス : 10/17～10/23(7日) 21. ジャスコ那覇 : 9/7～9/9(3日) 22. ジャスコ具志川 : 9/29～9/30(2日) 23. ジャスコ名護 : 9/29～9/30(2日) 24. ジャスコ北谷 : 10/2～10/4(3日) 25. ジャスコ南風原 : 10/27～10/28(2日) 26. 産業まつり : 10/26～10/28(3日) 	6 か所 (延べ 46 日) <p>沖縄県庁 那覇市役所 豊見城市役所 那覇空港 糸満市役所 那覇祭り</p>

手法	実施内容		PI ステップ2 実施内容
シンポジウム	1回	総合的な調査の内容等について、基調講演や数名のパネリストとの対話を通じて情報提供を行った。 10/6 おきでんふれあいホール	1回
説明会	9回	総合的な調査の結果等を、県民、地域住民、企業、団体に対して説明した。 一般県民：おきでんふれあいホール(9/14) 一般県民：糸満市農村環境改善センター (10/10) 一般県民：豊見城市立中央公民館 (10/11) 一般県民：沖縄市民会館 (10/16) 一般県民：沖縄県立郷土劇場 (10/17) 一般県民：北部合同庁舎 (10/23) 大 学 生：琉球大学 (10/15) 大 学 生：沖縄国際大学 (10/16) 県 職 員：県庁講堂 (10/17)	5回 一般県民 おきでん昼 おきでん夜 沖縄市民会館 大学生 琉球大学 沖縄国際大学
懇談会	28回	総合的な調査の結果等について、各種団体との意見交換を行った。 航空・空港関係者 (2回) 経済団体・観光団体 (23回) 地域住民 (3回)	3回 航空・空港関係者 経済団体 観光団体
空港見学会	1回	空の日の空港見学イベントを通じて、パネル等を用いた情報提供を行った。 9/22：空の日	1回
ホームページへの情報掲載	PI 期間中	ホームページにおいて、調査報告書等の総合的な調査に関する情報を提供した。	PI 期間中
意見募集	PI 期間中	県内外の方からの意見を受け付けるため、複数メディアによる受付体制を整えた。 ・郵送、FAX ・インターネット（ホームページ、メール） ・オープンハウス、説明会等	PI 期間中

評価

PI 実施計画で予定した活動は全て実施するとともに、ステップ3では新たにコンビニエンスストアなど報告書の設置箇所を増やすとともに、トランジットモールや商業施設等でのオープンハウス(36箇所:ステップ2では8回)や個別団体への説明会等(37回:ステップ2では8回)を全県的に数多く開催する等、幅広く県民が参加できるような活動を充実させている。

また、説明会等において家族等周囲への周知についての協力をお願いし、更なる周知に努めたことにより、説明会等に参加された方から更に周囲の方へと情報が伝わったものと推測される。

(2). 提供した情報が周知されたか

活動結果

PI 実施期間中に、街頭での配布や郵送、説明会等のイベント会場での配布により、調査報告書を 16,139 部、調査報告書(概要版)を 77,235 部、合計 93,374 部の資料を配布した。オープンハウスや懇談会等を数多く開催したことにより、配付数は、ステップ 1、2 の 3 倍と大幅な増となった。

ステップ 3 で実施したイベントのうち、オープンハウスに 7,653 人、シンポジウムに 180 人、説明会に 479 人(県内で 9 回開催)、懇談会に 699 人(県内で 28 回実施)、空港見学会に 398 人、延べ 9,409 人が参加した。特にオープンハウスや懇談会への参加人数は、ステップ 2 の約 6 倍となっており、開催数の増加に伴い参加人数も大幅増となった。

ホームページには、PI 活動の開始日から終了日までに、延べ 9,779 回のアクセスがあった。

この他に、調査報告書 3 の内容を紹介した新聞報道が 20 回あり、ステップ 2 の 8 回からの大幅に増加している。ステップ 3 では、将来対応方策として滑走路増設案が具体的に示され、県民やマスメディア等の関心も高まったものと推測される。

PI 参加者等を対象に実施したアンケートにおいて、総合的な調査を実施していることを「ステップ 3 で知った」と回答した人が約 7 割であった。

ステップ 2 では、ステップ 1 以前に知っていた方は約 47%と高かったが、ステップ 3 では、オープンハウスや説明会等の開催場所や頻度、調査報告書の設置箇所等を増やす等、全県的な情報提供の実施により、新たに多くの方々に情報を提供することができたものと考えられる。

また、アンケートの回収数は、ステップ 1、2 に比べ、オープンハウスや懇談会等を数多く開催したことにより、12,527 通とステップ 2 の約 9 倍と大幅増となった。

アンケートの回収については、参加人数の多い、オープンハウスでの回収数が最も多かった。

表 4 ステップ3で実施したPI手法への参加者数等（直接的周知）

手 法	参加者(延べ) 資料配付数	PI ステップ 1 及び 2 の実績
資料配付	93,374 部	ステップ 1 : 32,012 部配布 ステップ 2 : 27,183 部配布
調査報告書	16,139 部	ステップ 1 : 5,550 部 ステップ 2 : 5,710 部
調査報告書 (概要版)	77,235 部	ステップ 1 : 26,462 部 ステップ 2 : 21,473 部
イベント	9,409 人	ステップ 1 : 977 人参加 ステップ 2 : 2,205 人参加
オープンハウス	7,653 人 (配布 8,896 部)	ステップ 1 : 652 人 ステップ 2 : 1,331 人
シンポジウム	180 人 (配布 180 部)	ステップ 1 : - ステップ 2 : 251 人
説明会	479 人 (配布 827 部)	ステップ 1 : 325 人 ステップ 2 : 290 人
懇談会	699 人 (配布 1,756 部)	ステップ 1 : - ステップ 2 : 122 人
空港見学会	398 人 (配布 117 部)	ステップ 1 : (人数把握できず) ステップ 2 : 211 人
ホームページへの 情報掲載	9,779 アクセス	ステップ 1 : 約 16,000 アクセス (2 か月) ステップ 2 : 8,508 アクセス (3 か月)

：各会場で配布した調査報告書、概要版の部数合計（これらの部数は、上述の資料配付の部数に含まれる）

表 5 ステップ3実施に関連するマスメディアでの報道状況

区分	見出し/タイトル(報道月日)	報道要旨	メディア
新聞 (一般紙)	新滑走路3案を提示 - 周辺環境に一部影響も - 沖合ほど能力向上 (8/10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇空港調整会議の中で海側への滑走路増設として3案の提示及び各増設案を図入りで説明。 ・ 住民意見を募ることを報道 	琉球新報 (夕刊1面)
	那覇空港 滑走路増設で3案 県民の意見収集へ(8/10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇空港調整会議の中で海側への滑走路増設として3案の提示及び各増設案を図入りで説明。 ・ PIステップ3が最終段階であることを報道 	沖縄タイムス (夕刊1面)
	那覇空港沖合展開 課題は環境負荷軽減 住民との合意形成が鍵 (8/11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新滑走路増設 3案及び今回のPIにより県民見を取りまとめ、調査段階の終了を説明。 	琉球新報 (朝刊3面、単眼複眼)
	那覇空港に滑走路増設に3案 実現へ意見集約が課題 (8/11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新滑走路増設 3案およびPI調査を踏まえた上で具体的な検討作業に移ることを解説 	沖縄タイムス (朝刊2面)
	那覇空港で意見募集 (8/30)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PIステップ3の開始を報道 ・ 2ヶ月間の意見募集期間と県民の積極的な意見提出を呼び掛け 	琉球新報 (朝刊2面、クリップ)
	空港拡張に向け、県民意見を収集 パンフ配布等開始 (8/30)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PIステップ3の開始を報道 ・ パンフ配布の他、展示会や説明会、シンポジウムの実施によって県民からの意見提出を呼び掛け 	沖縄タイムス (朝刊2面)
	知事が那覇空港視察 沖合展開で説明を受ける (9/13)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知事が空港施設や滑走路予定地を視察し、3案の整備効果、コスト、環境への影響等の説明を受けたことを報道 	琉球新報 (夕刊2面)
	「沖合 1310メートル案の採用を」豊見城市長 那覇空港整備で要望 (9/14)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊見城市長が3案の中でより沖合での建設を要望していくことを報道 ・ 知事の新滑走路三案の予定地視察を報道 	沖縄タイムス (朝刊2面)
	那覇空港 現国内線ターミナルビルの南側延長を検討 (9/14)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国交省が滑走路増設に伴い、現国内線ターミナルビルの南側延長を検討していることを報道 	琉球新報 (朝刊2面)
	[那覇空港滑走路案] 説明会で意見収集へ 国・県 県内5カ所で(9/15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇市での1回目のPI説明会開催、同会で出された意見を報道 ・ 同様の説明会を5個所で行い県民の意見を収集すると説明 	沖縄タイムス (朝刊2面)
	[那覇空港整備]社会活動への活用提案「あり方を考えるシンポジウム」交流拠点の展望語る (10/7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PIステップ3の一環としてのシンポジウム開催の報道 ・ 様々な視点からの参加者の意見を紹介 	沖縄タイムス (朝刊2面)
	発展に重要な役割担う 那覇空港シンポ・滑走路増設に向け討議 (10/7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PIステップ3の一環としてのシンポジウム開催の報道 ・ 参加者の討議内容の紹介 	琉球新報 (朝刊2面)
	空港拡張へ”熱烈”応援を (10/8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンポジウムにおける知事の発言内容、様子を説明 	沖縄タイムス (朝刊2面、記者のME)
滑走路増設を要請 那覇空港 知事も協力求める (10/11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄懇話会代表が滑走路増設の早期着工を要請したことを報道 	沖縄タイムス (夕刊1面)	

区分	見出し/タイトル(報道月日)	報道要旨	メディア
新聞 (一般紙)	空港滑走路増設早期実現を要請 沖縄懇話会が知事に(10/11)	・ 沖縄懇話会代表が滑走路増設の早期実現を要請したことを報道	琉球新報 (夕刊 2 面)
	那覇空港連絡会 滑走路 3 案を説明 (10/12)	・ 豊見城市での説明会開催の報道 ・ 滑走路増設に伴う騒音問題について国交省の説明に対し市職員が追求	沖縄タイムス (朝刊 2 面)
	滑走路の早期増設を 那覇空港拡張で総決起大会 15 年完成目指す (10/18)	・ 那覇空港拡張に向けての総決起大会実施の報道 ・ 現施設能力の限界と整備効果を説明 ・ 早期増設に向けての県民の PI への積極的参加を呼びかけ	琉球新報 (朝刊 9 面)
	那覇空港 滑走路増設 15 年までに 観光業者ら 1500 人が総決起 (10/18)	・ 滑走路増設に向けての総決起大会実施の報道 ・ 地域住民の希望やバックアップが必要と訴え、参加者に対し県民への周知活動に協力を呼びかけ	沖縄タイムス (朝刊 1 面)
	那覇空港滑走路早期着工を要望 (10/24)	・ PI ステップ 3 実施結果の提出を報道 ・ 新滑走路の早期着工、ターミナルビル拡張を要請	琉球新報 (朝刊 11 面)
	第 2 滑走路 早期着工を 那覇空港整備で要請 (10/24)	・ 観光未来考える会等が第 2 滑走路建設の早期着工、ターミナルビル拡充の要請をしたことを報道 ・ 集めた PI 調査票の提出	沖縄タイムス (朝刊 9 面)

注) 琉球新報：県内主要紙、発行部数 20.5 万部 (2005.10.11 現在、社団法人 A B C 協会 調べ)

沖縄タイムス：県内主要紙、発行部数 206,877 部 (2007.1 現在、自社発表)

新聞、雑誌の発行部数を調査・公表する第三者機関。

評価

調査報告書の配付や各種イベントを通じて、総合的な調査に関する情報を、ステップ1、2を大きく上回る県内外の約9万3千人の方々に対して、直接提供できている。オープンハウス等の開催場所や頻度、調査報告書の設置箇所を可能な限り増やす等、全県的に情報提供に取り組んだことにより、総合的な調査を実施していることを「ステップ3で知った」と回答した人が約7割と、前回以上に多くの方々に情報を提供することができたことから、県民等への認知度が加速度的に高まったものと推測される。県民の多数が購読する県内主要2紙では、ステップ1、2を大きく上回る20回の報道がなされ、間接的であるが、多くの県民等にステップ3に関する情報が提供されている。

アンケートについては、オープンハウスでの回収数が最も多く、県民等が集まる商業施設等を加えたことにより、より多くの県民等に情報を提供できている。

また、アンケートに回答した12,527人のうち、8,710人(全体の約69.5%)の県民等が自由回答欄に意見を寄せていることから、提供した情報については十分に周知されたものと推測される。

アンケートについては、ステップ2の約9倍となる12,527人(ステップ2:1,337人)の県民等から回答を得ており、回答者の構成は次のとおり。

[性別] 回答者の53.9%を男性が占めた。女性の比率は、ステップ2より約6.8%上昇した(女性の割合 ステップ2:29.8% ステップ3:36.6%)。

主婦等女性が多く集まる商業施設等でオープンハウス等を実施したことにより、女性の比率が上昇したものと推測される。

[年齢] 30歳代が26.0%と最も多く、次いで20歳代で20.0%、40歳代と50歳代はほぼ同じく約18%であった。年齢の構成については、ステップ2とほぼ同様となっており、幅広い年齢層から回答を得ることができた。

[職業] 空港を利用する機会が相対的に多いと考えられる会社員が39.8%、公務員が約9.8%占めたほか、主婦(9.9%)、学生(9.1%)、自営業(5.5%)からも回答を得ることができた。

公務員の比率がステップ2より5.2%減少しているが、ステップ3では、行政施設だけでなく、商業施設等でも数多くオープンハウス等を開催したことにより、より幅広い職業層から回答を得ることができたものと推測される。

居住地については、那覇市が約31%で最も多く、次いで豊見城市、浦添市などとなり、全県的に幅広く回答を得ることができた。また、県外(15.0%)からも多くの回答を得ることができた。

居住地の無回答率については、ステップ2の約40%に比べてステップ3では約4.6%と大幅に改善した。これはステップ2での反省を教訓に、居住地を記入する欄を見落とさないよう、居住地等個人に関する質問の位置をアンケートの最初に変更したことによるものと考えられる。

オープンハウス等を行政施設だけでなく、女性等が集まる商業施設等でも実施した結果、ステップ2に比べ女性の割合は6.8%増える等、性別の偏りが改善し、また、より幅広い職業層から回答が得られている。

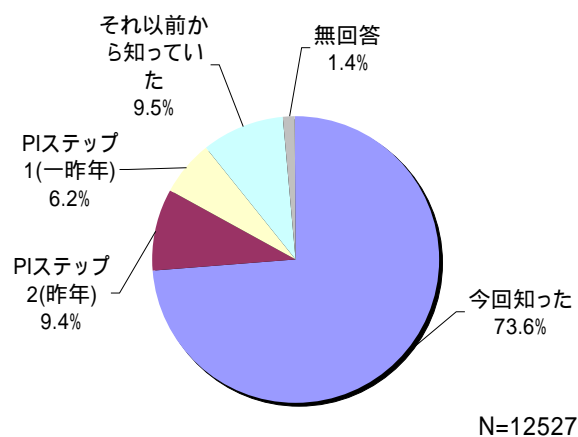


図 3 「那覇空港の総合的な調査」を知った時期（アンケート結果）

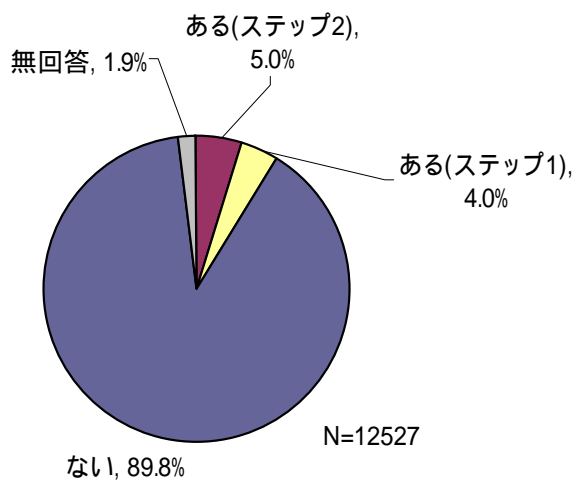


図 4 過去のアンケート回答状況について（アンケート結果）

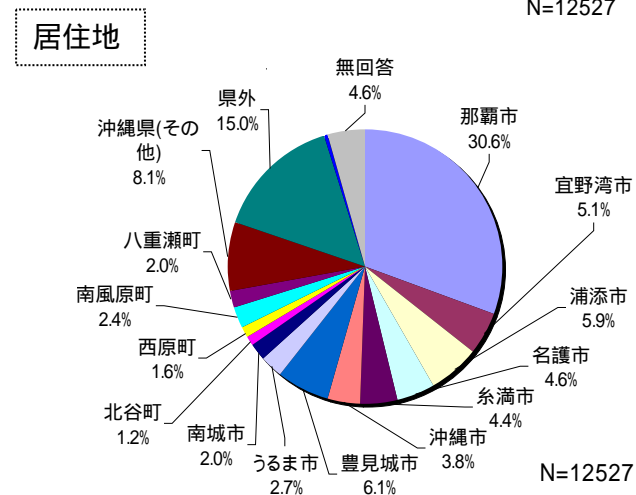
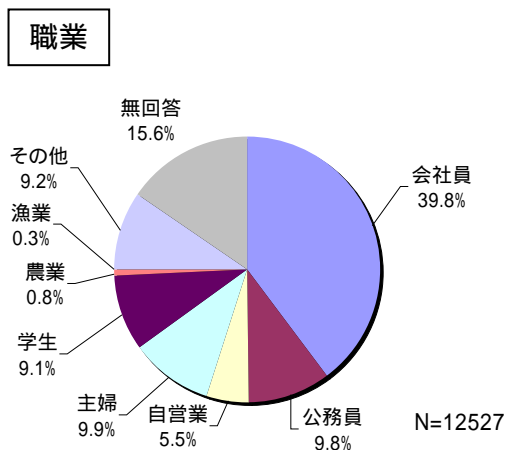
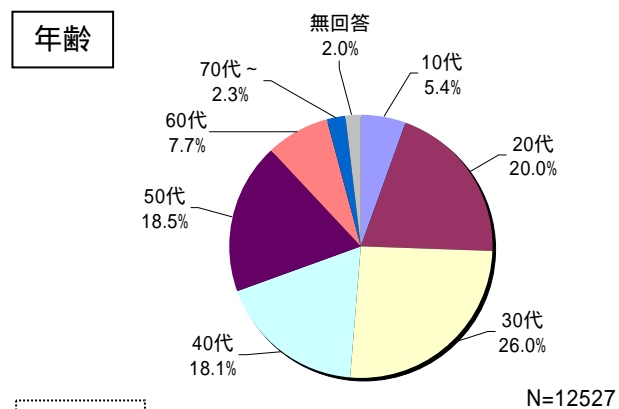
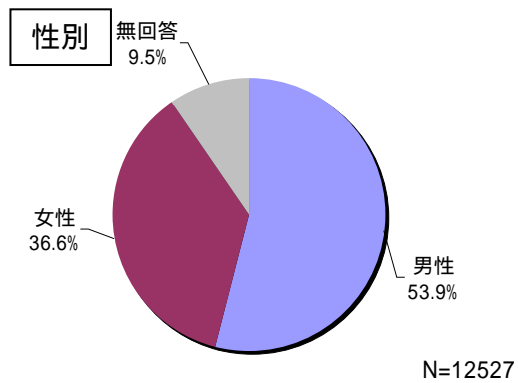


図 5 アンケートに回答した県民等 (12,527 人) の構成

(3). 提供した情報が理解されたか

活動結果

調査報告書の理解度

アンケート調査の結果、報告書の内容において「A理解できた」、「Bある程度理解できた」と回答した人の比率の合計が約9割であった。

需要予測等について情報提供を行ったステップ2では、「理解できた」、「ある程度理解できた」と回答した人の比率は8割前後と低かったが、ステップ3では、将来対応方策案等を具体的に示したことから、視覚的にも理解しやすかったものと考えられる。

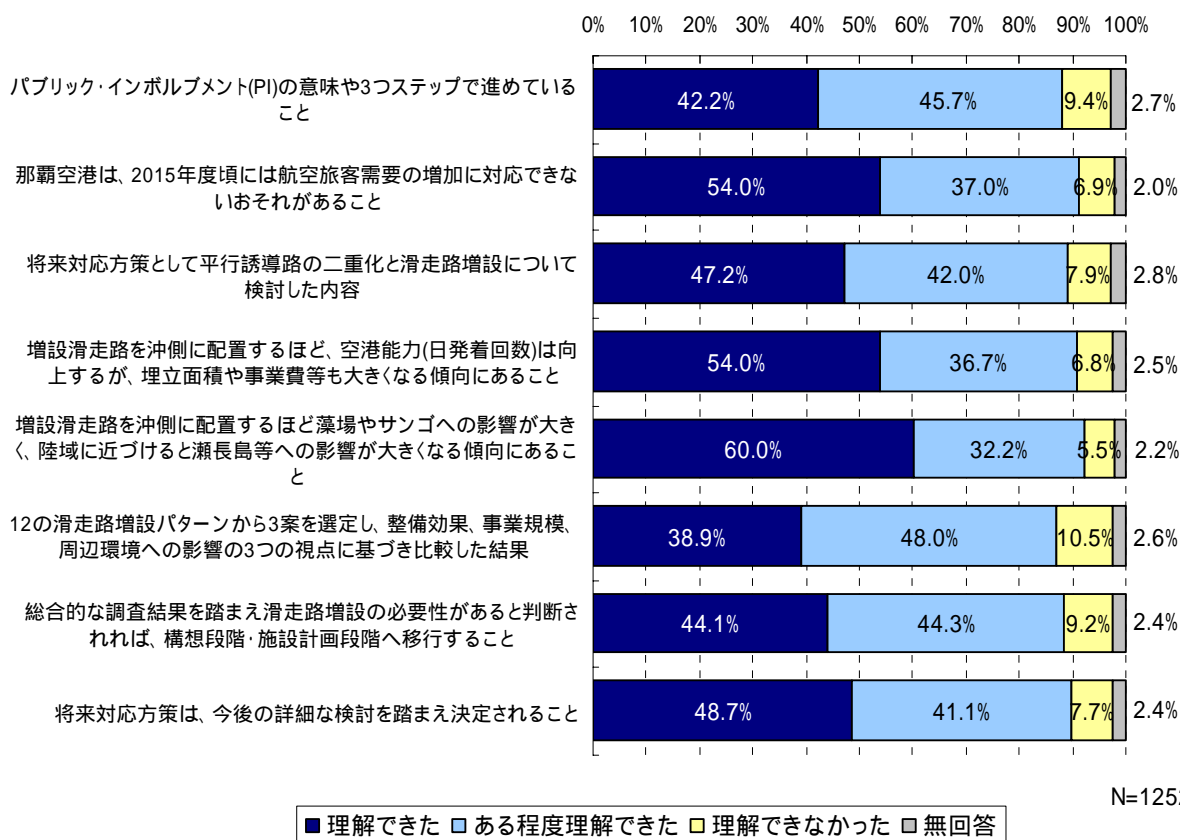


図 6 P I 参加者等における調査報告書の要点の理解度（アンケート結果）

評価

アンケートについては、ステップ2の約9倍となる12,527人の方から回答が得られており、回答者の約9割が、調査報告書の要点について「理解できた」または「ある程度理解できた」と回答している。

この結果から、PI活動を通じて提供した情報を受け取った県民等に、調査報告書に提示されたステップ3で共有すべき情報について、概ね理解が得られたものとする。

(4). 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか

活動結果

自由回答欄に意見を寄せた県民等

全回答者（12,527人）のうち8,710人（全体の69.5%）の県民等が自由回答欄に意見を寄せた。回答者の構成は次のとおりであり、アンケートに回答した属性と大きな違いは見られなかった。

[性別] 回答者の55.0%を男性が占めた。女性の比率はステップ2より8.5%上昇した。（ステップ1：21.8%、ステップ2：27.8% ステップ3：36.3%）。

[年齢] 30歳代が最も多く25.9%であり、次いで20歳代で20.8%、40歳代と50歳代はほぼ同じく約18%であった。

[職業] 会社員が40.5%、公務員が10.7%を占めたほか、主婦（9.5%）、学生（9.3%）、自営業（5.2%）からも回答を得ることができた。

[居住地] 居住地については、那覇市が約30%で最も多く、次いで浦添市、豊見城市などとなっており、全県的に幅広く回答を得ることができた。また、県外（17.2%）からも多くの回答を得ることができた。無回答率については、ステップ3では約3.8%と、ステップ2（約37%）に比べ大幅に改善した。

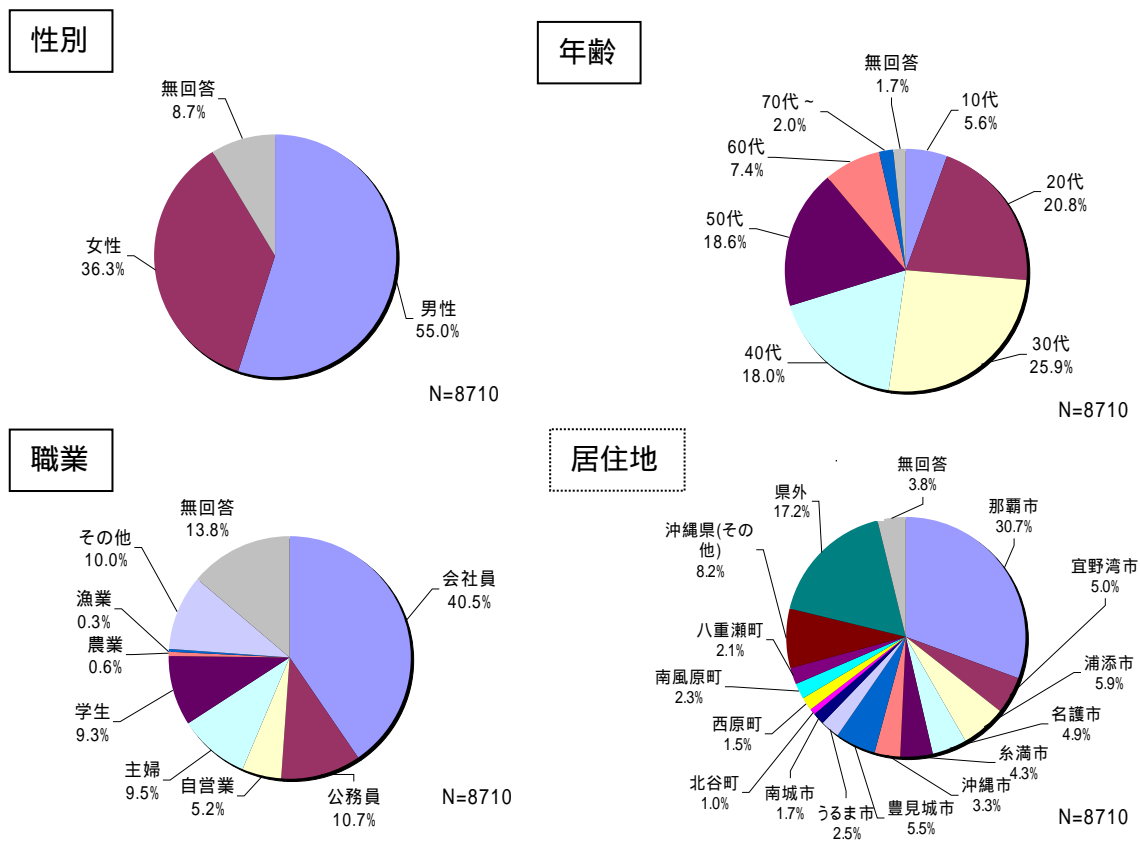


図 7 アンケートにより意見を寄せた県民等（8,710人）の構成

将来対応方策案の評価項目の中で重要と選定された項目

将来対応方策案の評価項目の中で、特に重要と考える項目（3項目まで複数回答可）について回答頂いた方のうち、約半数の51%の方が3項目を選定している。

重要項目として選定された項目の中では、「自然環境への影響」が最も多く、回答した方の52%が選定している。続いて「空港能力」(45%)、「経済効果」(43%)であった。

将来対応方策案の評価項目について、2,196人の方が特に重要と考える項目として1項目選定しており、そのうち最も多かった項目は、「自然環境への影響」(41%)であった。続いて「空港能力」(21%)、「経済効果」(19%)であった。

また、将来対応方策案の評価項目について、特に重要と考える項目として2項目選定した方は2,086人となっており、選定された項目の中で、最も多かった組合せは、「自然環境への影響・社会環境への影響」(23%)であった。続いて、「空港能力・経済効果」(15%)、「空港能力・自然環境への影響」(14%)であった。

次に、将来対応方策案の評価項目について、特に重要と考える項目として3項目選定した方は6,535人となっており、選定された項目の中で、最も多かった組合せは、「空港能力・経済効果・利便性」(19%)であった。続いて、「空港能力・経済効果・自然環境への影響」(16%)、「空港能力・利便性・自然環境への影響」(9%)であった。

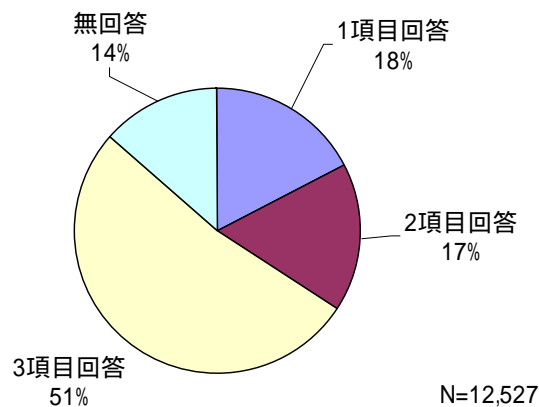


図 8 選定された重要項目の割合

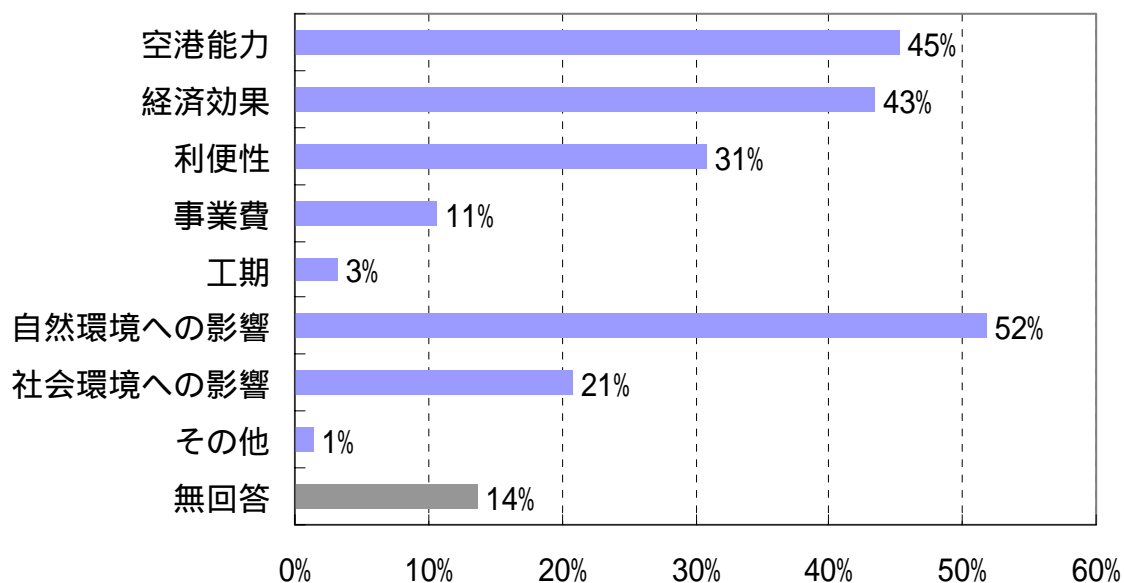
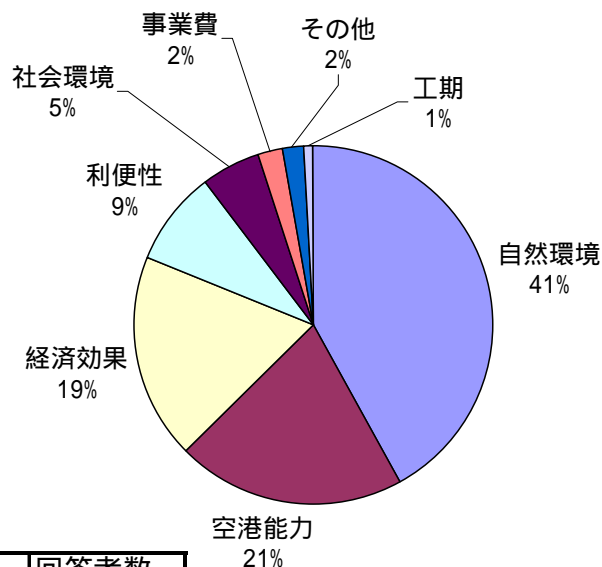


図 9 選定された重要項目の内訳

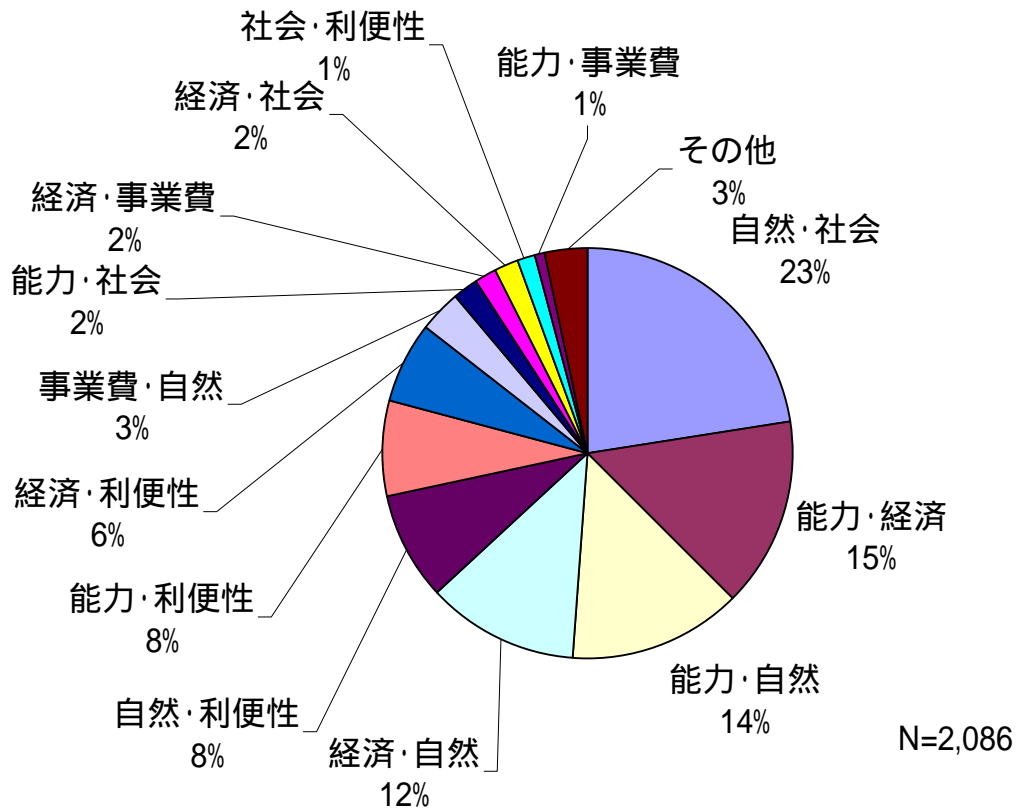
図表 A 重要とした選択項目（1項目回答した方を対象）



N=2,196

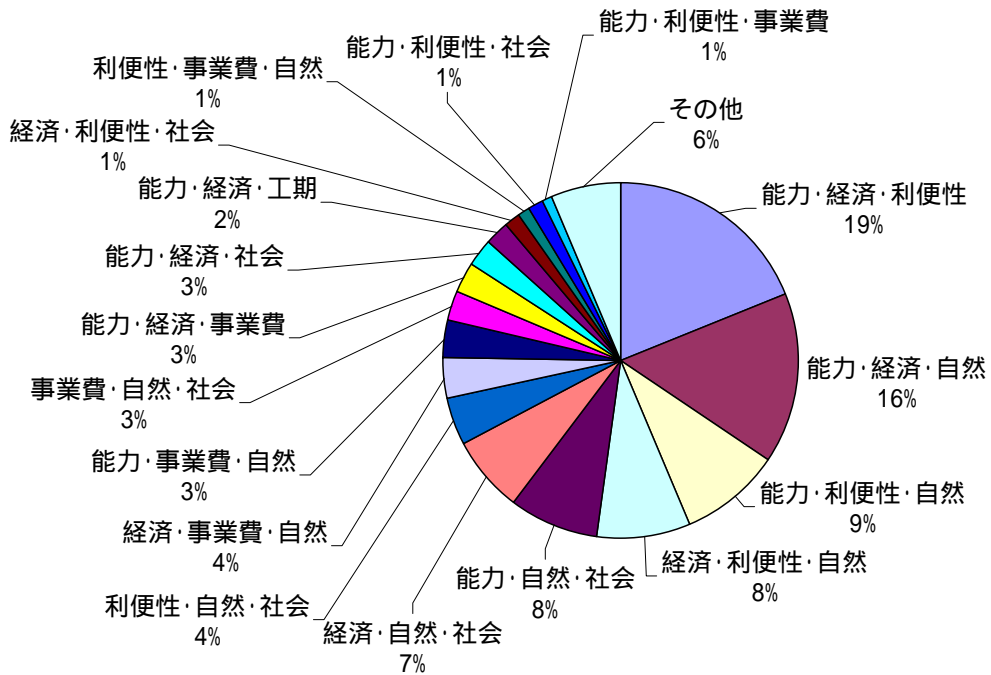
選択された評価項目	回答者数 (n=2,196)
自然環境	920
空港能力	451
経済効果	409
利便性	192
社会環境	113
事業費	51
その他	41
工期	19

図表 B 重要とした選択項目の組み合わせ（2項目回答した方を対象）



選択された評価項目	回答者数 (n=2,086)
自然・社会	469
能力・経済	316
能力・自然	284
経済・自然	248
自然・利便性	177
能力・利便性	158
経済・利便性	134
事業費・自然	67
能力・社会	41
経済・事業費	37
経済・社会	37
社会・利便性	31
能力・事業費	20
その他	67

図表 C 重要とした選択項目の組み合わせ（3項目回答した方を対象）



N=6,535

選択された評価項目	回答者数 (n=6,535)
能力・経済・利便性	1239
能力・経済・自然	1020
能力・利便性・自然	600
経済・利便性・自然	551
能力・自然・社会	523
経済・自然・社会	467
利便性・自然・社会	281
経済・事業費・自然	235
能力・事業費・自然	217
事業費・自然・社会	189
能力・経済・事業費	181
能力・経済・社会	169
能力・経済・工期	143
経済・利便性・社会	85
利便性・事業費・自然	81
能力・利便性・社会	75
能力・利便性・事業費	64
その他	415

寄せられた意見の内容

アンケートで寄せられた 8,710 人の他、説明会等で 182 人から意見が寄せられた。これら 8,892 人の意見を分析した結果、意見の総数は 20,951 件であった。

これらの意見の全てについて、下図に示す手順で分類したところ、「将来対応方針に肯定的なご意見」、「将来対応方針に否定的なご意見」、「将来対応方針に慎重なご意見」、「将来対応方針に対するその他ご意見」、「P I の取組みに関する意見」、「那覇空港の現状・課題等に関する意見」、「航空路線網に関する意見」、「自衛隊に関するご意見」、「その他ご意見」の 9 項目に大別でき、更に 25 項目に分類できた。

寄せられた意見の多くは、ステップ 3 に関する意見が中心であり、「将来対応方針に肯定的なご意見」(64.1%)、「将来対応方針に慎重なご意見」(12.0%)、「将来対応方針に否定的なご意見」(8.5%)が全体の約 8 割を占めた。

寄せられた意見の中で、「将来対応方針に肯定的なご意見」が最も大きな割合を占めたが、将来対応方針に肯定的な意見の中でも、滑走路増設に当たっては自然環境や社会環境への影響低減やコスト縮減等、様々な配慮を求める意見が約 4 割を占めた。

複数の意見を寄せられた県民等がいるため、意見を寄せられた県民等の人数と一致しない。

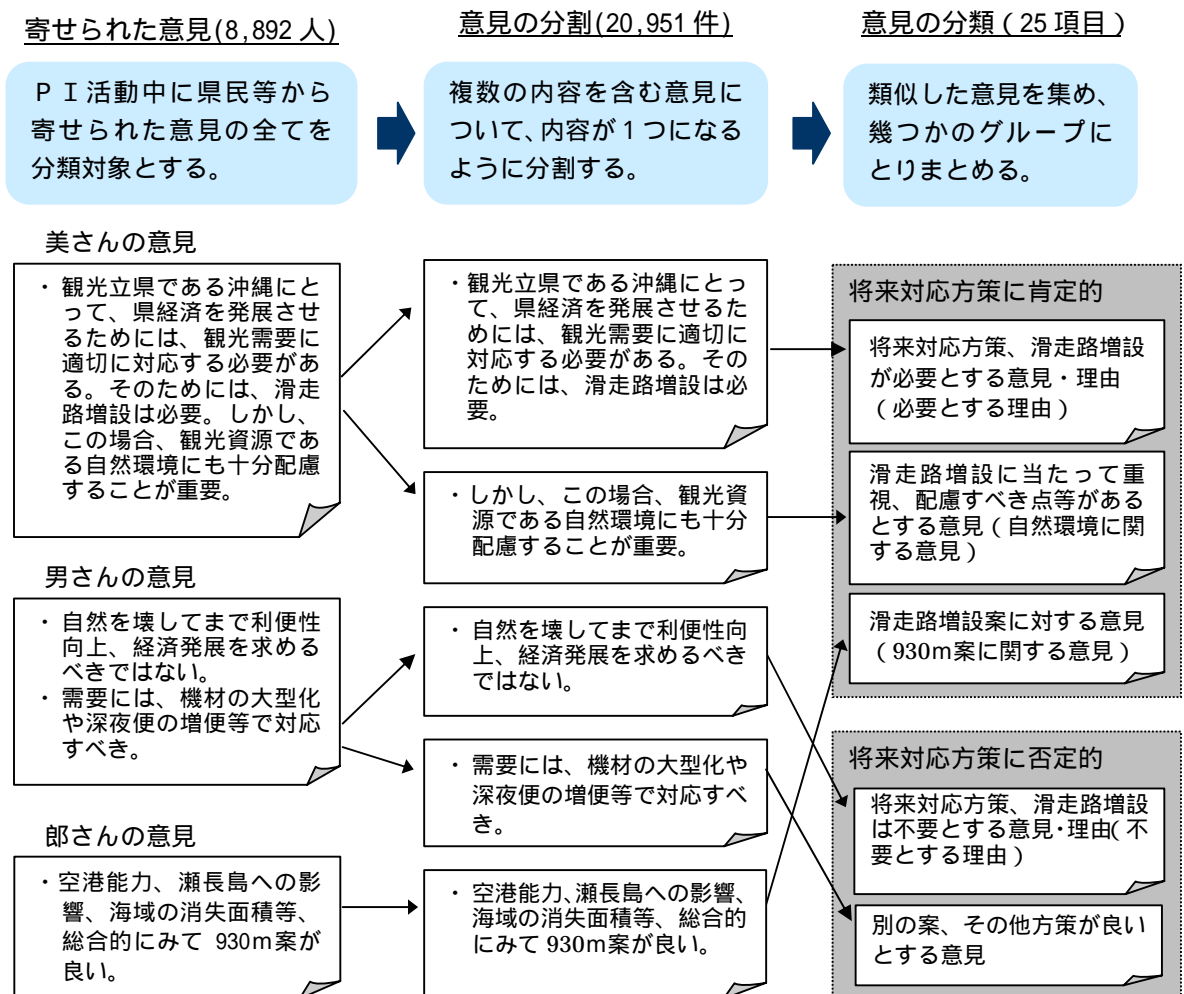


図 10 寄せられた意見の分類方法(イメージ)

表 6 寄せられた意見の分類

意見の内容		意見数		
ステップ3に関するご意見	一、将来対応方針に肯定的なご意見	1. 将来対応方針、滑走路増設が必要とするご意見・理由	5,440	(26.0%)
		2. 滑走路増設に当たって重視、配慮すべき点等があるとするご意見	5,236	(25.0%)
		3. 滑走路増設案に対するご意見	2,264	(10.8%)
		4. 別の案、その他の方が良いとするご意見	36	(0.2%)
		5. 平行誘導路の二重化に対するご意見	73	(0.3%)
		6. 其他のご意見	384	(1.8%)
	二、将来対応方針に否定的なご意見	7. 将来対応方針、滑走路増設は不要とするご意見・理由	1,506	(7.2%)
		8. 別の案、その他の方が良いとするご意見	158	(0.8%)
		9. 其他のご意見	126	(0.6%)
	三、将来対応方針に慎重なご意見	10. 滑走路増設に慎重な理由	1,758	(8.4%)
		11. 今後の検討・進め方に関するご意見	592	(2.8%)
		12. 其他のご意見	172	(0.8%)
	四、将来対応方針に対するその他ご意見	13. 其他のご意見	449	(2.1%)
	五、PIの取り組みに関するご意見	14. 調査報告書に関するご意見	290	(1.4%)
		15. PIの進め方に関するご意見	404	(1.9%)
		16. PIに関するご意見	62	(0.3%)
ステップ3で寄せられたステップ1に関するご意見	六、那覇空港の現状・課題等に関するご意見	17. 旅客ターミナルビルに関するご意見	298	(1.4%)
		18. 貨物ターミナル地区に関するご意見	16	(0.1%)
		19. ターミナル地域の将来整備に関するご意見	29	(0.1%)
		20. その他利便性向上に関するご意見	394	(1.9%)
		21. 環境問題に関するご意見	12	(0.1%)
		22. 其他のご意見	71	(0.3%)
	七、航空路線網に関するご意見	23. 航空路線網に関するご意見	64	(0.3%)
八、自衛隊に関するご意見	24. 自衛隊との共同利用などに関するご意見	279	(1.3%)	
	24. 自衛隊との共同利用などに関するご意見	279	(1.3%)	
九、其他のご意見	25. 其他のご意見	838	(4.0%)	
合計		20,951	(100.0%)	

寄せられた全ての意見は、那覇空港調査連絡調整会議のホームページ上で公開している。
 (アドレス：<http://www.pref.okinawa.jp/koutsuu/nahakuukou/>)

寄せられた意見への対応

寄せられた 25 項目の意見に対する対応を検討し、この結果を提示した。(表 7 寄せられた意見と意見に対する対応 参照)

評価（幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか）

オープンハウス等を行政施設だけでなく、女性等が集まる商業施設等でも実施した結果、ステップ 2 に比べ女性の割合は 6.8%増える等、性別の偏りが改善し、また、より幅広い職業層から回答が得られている。

これらの県民等から寄せられた意見の内容は、ステップ 3 で提供した総合的な調査や P I 活動について多岐にわたったものとなっている。

また、ステップ 3 で提供した情報を踏まえ、今後計画案を具体化していく際の検討課題についての意見も数多く寄せられている。

収集した意見は 20,951 件と、ステップ 2 (2,404 件) の約 9 倍と大幅に増加しており、これらの全ての意見を 25 項目に分類し、分類した項目に対する対応を検討し、考え方を提示している。

表 7 寄せられた意見と意見に対する対応

段階	分類	意見		意見に対する対応見解
		件数	概要	
ステップ3に関するご意見	1. 将来対応方策、滑走路増設が必要と するご意見・理由	13,433 件		
		5,440 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		内訳	1-1 必要とすること意見 ・将来対応方策は必要・良い ・滑走路増設は必要	那覇空港は、離島住民も日常的に利用する県内離島のハブ空港であり、沖縄県のリーディング産業である観光・リゾート産業を支える重要な社会基盤であります。しかし、那覇空港は、夏場の観光シーズンを中心に現在でも予約が取りにくい状況となっており、現在の施設のままでは、将来の需要に対応できなくなると予測されております。これに伴う県経済への影響は大きいものと予想され、ご指摘のとおり那覇空港の機能拡充が重要な課題となっております。また本年8月の航空機炎上事故等、不測の事態に対応するためにも、滑走路増設を含む将来対応方策の詳細な検討が必要と考えており、今後、将来対応方策を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられたご意見を踏まえ、将来の需要に適切に対応するため工期短縮に努めるとともに、自然環境や社会環境への影響を出来る限り低減させるよう努めてまいります。
	604 550	1-2 必要とする理由 ・県経済発展（雇用創出、自立発展）のために必要 ・利便性の向上（予約環境の改善・定時性確保）のために必要 ・空港能力向上のために必要 ・有事や事故等、安全面から整備が必要 ・離島県の公共交通としての機能拡充のために必要		
		2,402 714 703 329 138		
	2. 滑走路増設に当たって重視、配慮すべき点等があるとするご意見	5,236 件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		2,345 127	2-1 自然環境に関するご意見 ・滑走路増設に当たっては、自然環境への影響低減が必要 ・滑走路増設に当たっては、自然環境への影響はやむを得ない	今後、将来対応方策を詳細に検討していく際には、できる限り自然環境への影響低減や保全に努めてまいります。
		239 56 9	2-2 社会環境に関するご意見 ・瀬長島の保全、社会的影響の低減等の配慮が必要 ・沖縄独特の文化保全のため社会的影響の低減が必要 ・大嶺崎の保全、社会的影響の低減等の配慮が必要	今後、将来対応方策を詳細に検討していく際には、できる限り社会環境への影響低減や保全に努めてまいります。
		780 744 357 297 141 93 41 7	2-3 今後の検討、進め方等に関するご意見 ・工期短縮による増設滑走路の早期整備が必要 ・県の上位計画等、将来を見据えた整備が必要 ・コスト縮減、費用対効果の精査が必要 ・今後事業を進めるに当たり、PIで寄せられた意見等を踏まえることが必要 ・報告書で示された評価指標をバランスよく実現することが必要 ・騒音軽減を図ることが必要 ・将来需要の精査が必要 ・ピーク時以外の時間帯の活用、機材の大型化等の検討も必要	那覇空港は、東アジア地域の主要都市に近接した位置にあることから、沖縄県では、当該地域との地理的・歴史的近接性を活かし、アジア・太平洋地域の国際交流拠点及び国際物流拠点の形成に向けて取り組むこととしており、今後、将来対応方策を詳細に検討していく際には、沖縄県のこれらの計画等や、皆様から寄せられた多くのご意見をふまえ、工期短縮、コスト縮減、費用対効果、騒音の軽減等について検討を行うとともに、日本の南の玄関口として相応しい空港整備が図られるよう努めてまいります。
	3. 滑走路増設案に対するご意見	2,264 件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
		965 118 97	3-1 1310m案に関するご意見 ・1,310m案が望ましいとするご意見 ・空港能力が最大となり同時離発着が可能なオープンパラレルの整備が望ましい ・経済効果、自然・社会環境、安全面等、総合的に評価が高い	今後、将来対応方策を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられた多くのご意見をふまえ、空港能力、事業費、環境への影響等、総合的な観点から検討を行ってまいります。
	282 99	3-2 930m案に関するご意見 ・930m案が望ましいとするご意見 ・空港能力、経済面、利便性、自然・社会環境等バランスが良い		
	486 217	3-3 210m案に関するご意見 ・210m案が望ましいとするご意見 ・環境影響、事業規模（埋立・事業費・工期）が最小で、経済効果もある程度期待できる		
4. 別の案、その他の方策が良いとするご意見	36 件			
	内訳	(意見の内容)		
	36	・1,310m案、930m案、210m案以外の増設案が望ましい		
5. 平行誘導路の二重化に対するご意見	73 件			
	内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
	73	・滑走路増設には反対だが、平行誘導路の二重化は良い	平行誘導路の二重化については、比較的事業費が小さく、工期も短いものの、現有スポットの減少が避けられないことから、代替スポットの確保とあわせて検討してまいります。	
6. その他のご意見	384 件			

表 7 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	件数	意見概要	意見に対する対応見解	
ステップ3に関するご意見	二、将来対応方針に否定的なご意見	1790 件			
		1506 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
		内訳	7-1 必要としないご意見 ・滑走路増設は不要 ・将来対応方針は不要	那覇空港は、夏場の観光シーズンを中心に現在でも予約が取りにくい状況となっており、今後とも旅客数は増加し、現在の施設のままでは、将来の需要に対応できなくなると予測されております。そのため、観光がリーディング産業である沖縄県にとって、県経済へ与える影響は大きいものと予想されます。	
		218 106 867 179 58 44 20 11 3	7-2 必要としない理由 ・自然環境への影響が懸念される ・海域の消失等に伴い沖縄観光への影響が懸念される ・需要は伸びない ・瀬長島への影響が懸念される ・騒音影響が懸念される ・大嶺崎への影響が懸念される ・地上走行に時間がかかり利便性が低下する	また、航空輸送の他に高速輸送手段がない離島県沖縄にとって、那覇空港は、県民生活や経済活動を支える重要な基盤であることから、本年8月の航空機炎上事故等、不測の事態に対応するためにも、滑走路増設を含む将来対応方針の詳細な検討が必要と考えております。 なお、今後、将来対応方針を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられたご意見を踏まえ、需要予測で想定した前提条件に変化がないか、那覇空港の実際の利用状況や航空会社の動向等を十分に検証してまいります。また、将来対応方針の実施に当たっては、海域の埋立等が生じることから、将来対応方針を詳細に検討する際には、これまでに実施した環境調査結果や他事業の保全対策の事例、那覇空港周辺の環境状況等を踏まえ、自然環境や社会環境への影響をできる限り低減するよう努めてまいります。	
	158 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
	内訳	・既存施設での有効活用方を求めるご意見 ・ピーク時以外の活用、機材の大型化等を求めるご意見 ・民間専用化を行い滑走路1本で対応すべき	今後、将来対応方針を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられた多くのご意見をふまえ、空港能力、事業費、環境への影響等、総合的な観点から検討を行ってまいります。		
	97 28 33				
	9. 其他のご意見	126 件			
	三、将来対応方針に慎重なご意見	10. 滑走路増設に慎重な理由	2522 件		
			1758 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)
			内訳	10-1 事業効果や事業費等に関するご意見 ・費用対効果の十分な検討が必要 ・費用に相当する効果があるか疑問 ・財政負担、増税等が懸念される ・コスト縮減等について検討が必要	那覇空港は、夏場の観光シーズンを中心に現在でも予約が取りにくい状況となっており、今後とも旅客数は増加し、現在の施設のままでは、将来の需要に対応できなくなると予測されております。そのため、観光がリーディング産業である沖縄県にとって、県経済へ与える影響は大きいものと予想されます。
		86 75 63 22	10-2 需要予測に関するご意見 ・需要がのびるか疑問 ・需要予測の精査等が必要	また、航空輸送の他に高速輸送手段がない離島県沖縄にとって、那覇空港は、県民生活や経済活動を支える重要な基盤であることから、本年8月の航空機炎上事故等、不測の事態に対応するためにも、滑走路増設を含む将来対応方針の詳細な検討が必要と考えております。	
		72 54	10-3 自然環境・社会環境に関するご意見 ・自然環境への影響が懸念される ・自然環境への影響低減を図ることが必要 ・事業実施に当たっては、自然環境への影響が最小であることが前提 ・瀬長島への影響が懸念される ・騒音影響が懸念される ・大嶺崎への影響が懸念される	なお、今後、将来対応方針を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられたご意見を踏まえ、需要予測で想定した前提条件に変化がないか、那覇空港の実際の利用状況や航空会社の動向等や、費用対効果を十分に検証するとともに、コスト縮減等に努めてまいります。また、これまでに実施した環境調査結果や他事業の保全対策の事例、那覇空港周辺の環境状況等を踏まえ、自然環境や社会環境への影響をできる限り低減するよう努めてまいります。	
889 239 161 60 30 7					
11. 今後の検討・進め方に関するご意見	592 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
内訳	・現段階での判断は難しいとするご意見 ・様々な視点からの検討が必要 ・今後事業を進めるに当たり、PIで寄せられた意見等を踏まえることが必要 ・報告書で示された評価指標をバランスよく実現することが必要 ・陸側へ滑走路を増設する等の検討が必要 ・民間専用化を行い滑走路1本で対応すべき	今後、将来対応方針を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられた多くのご意見をふまえ、空港能力、事業費、環境への影響等、総合的な観点から検討を行ってまいります。			
216 157 106 84 16 13					
12. 其他のご意見	172 件				
対四、将来の対応ご意見	13. 其他のご意見	449 件			
		449 件	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
内訳	・質問等問いかけ、その他 ・米軍基地を活用した空港整備 ・北部等への空港新設 ・施設規模に関するご意見（滑走路長等） ・最新の技術を活用して、別の方策を検討すべき ・安全、事故の無い空港にすべき	今後、将来対応方針を詳細に検討していく際には、皆様から寄せられた多くのご意見をふまえ、空港能力、事業費、環境への影響等、総合的な観点から検討を行ってまいります。			
165 98 79 62 22 23					

表 7 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

段階	分類	意見		意見に対する対応見解	
		件数	概要		
ステップ3に関するご意見	五 P Iの取り組みに関するご意見	756 件			
		14. 調査報告書に関するご意見	290 件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
		133	・分かりにくい	調査報告書の作成にあたっては、ステップ1や2でのご指摘を踏まえ、文章表現を工夫するとともに、図や絵を多く添えるなど、できる限り短く分かりやすい表現となるよう努めました。また、提供する情報については、基本的な情報は調査報告書に盛り込み、詳細については別途ホームページに掲載することにより、情報不足が無いよう努めました。 なお、今後、将来対応方を詳細に検討していく際には、今回のご意見を踏まえ、理解しやすい情報の開示や十分な情報の提示に努めていきたいと考えております。	
		113	・内容を充実すべき		
		44	・分かりやすい		
	15. P Iの進め方に関するご意見	404 件			
	内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
		217	・情報提供方法を改善、充実すべき	P Iは、実施計画に基づき行っており、実施計画では、P Iの各ステップの内容に合わせ、多くの皆様に参加しやすい方法を定めております。 ステップ3の実施にあたっては、ステップ1や2で実施した各手法について検証を行い、より効果の高かったオープンハウスや説明会等については、箇所や回数を増やす等、重点的に実施しました。なお、今後、将来対応方を詳細に検討していく場合のP Iの実施にあたっては、ステップ1～3で実施した各手法について十分検証を行い、効果の高かった手法を重点的に実施していきたいと考えております。	
		138	・P Iに期待している		
		31	・幅広く意見を収集すべき		
		10	・P Iで寄せられた意見概要の情報提供について		
		8	・P Iを短縮してほしい		
	16. P Iに関するご意見	62 件			
	内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
		7	・質問の意図がわからない、アリバイ作り等	P Iは、幅広く県民等の皆様に調査検討過程に参画していただくため実施するものであり、県民等の皆様に情報の提供を行い、寄せられたご意見を把握し、調査に反映させていくこととしております。P Iは、県民等とP I実施主体が情報を共有し、調査の透明性の確保及び質的向上を図ることを目的に実施しております。なお、P Iの実施にあたっては、透明性を確保するため、十分な情報の提供や意見収集がなされているか等について、第三者機関であるP I評価委員会の評価・助言を得ながら実施しております。	
		55	・その他のご意見		
ステップ3で寄せられたステップ1に関するご意見	六 那覇空港の現状・課題等に関するご意見	820 件			
		17. 旅客ターミナルビルに関するご意見	298 件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
			165	・国内線旅客ターミナルビルの利便性向上を求めるご意見 (ビルの拡張、保安検査などの混雑解消、利便施設の充実など)	当面は、滑走路増設にかかわらず既存施設の狭隘化解消のため、ターミナル地域を現国内線旅客ターミナルビルの北側へ展開します。手順としては、新しい貨物ターミナルビルを整備し、その後現貨物ターミナル地区へ国際線旅客ターミナルビルを移転、さらにその跡地へ国内線旅客ターミナルビルを拡張します。
			122	・国際線旅客ターミナルビルの利便性向上を求めるご意見 (ビルの拡張、利便施設の充実など)	
			11	・旅客ターミナルビルの利便性に関するご意見 (遊び場等があり便利である等、好意的なご意見)	
		18. 貨物ターミナル地区に関するご意見	16 件		
		内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)	
			16	・貨物ターミナル地区の利便性向上を求めるご意見 (狭隘化している、危険である、拡充整備など)	貨物ターミナル地区については、現貨物ターミナル地区での機能向上が困難なことから、旧旅客ターミナル地区への移設に向けて取り組んでまいります。また、沖縄県では、国際航空・航路ネットワーク拠点の形成に向けて、那覇空港への国際航空物流関連企業の誘致を推進するとともに、貨物ターミナル地区の早期整備など各種支援体制を構築してまいります。
		19. ターミナル地域の将来整備に関するご意見	29 件		
	内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
		29	・ターミナルビルの位置や、国内線・国際線ビルの一体的整備等に関するご意見	当面は、滑走路増設にかかわらず既存施設の狭隘化解消のため、ターミナル地区を現国内線ターミナルビルの北側へ展開します。手順としては、新しい貨物ターミナルビルを整備し、その後旧貨物ターミナル地区へ国際線旅客ターミナルビルを移転、さらにその跡地へ国内線旅客ターミナルビルを拡張します。	
	20. その他利便性向上に関するご意見	394 件			
	内訳	(意見の内容)	(主な意見に対する対応見解)		
		184	・モノレール・道路等の空港アクセスの充実に関するご意見	現在、沖縄路線については、航空機燃料税率の軽減措置による航空運賃の低減が図られております。空港アクセスについては、自動車移動の高速性、定時性を確保するため、現在、国において那覇空港自動車道の整備を進めており、またモノレールについても、延伸に向けた検討を県において進めているところです。 その他のご意見についても、今後関係機関と連携を図り、利便性向上に努めてまいります。	
		81	・駐車場や駐車スペースの利便性向上に関するご意見		
		50	・台風時の対応に関するご意見		
		44	・航空・空港サービスの充実を求めるご意見		
		35	・空港施設内への都市機能施設の導入に関するご意見		
	21. 環境問題に関するご意見	12	・現況の騒音対策に関するご意見	現在、民家防音対策などを実施しており、引き続き適切に対応してまいります。	
	22. その他のご意見	71			

表 7 寄せられた意見と意見に対する対応（続き）

意見		意見に対する対応見解	
段階	分類	件数	概要
七、 航空路線網に関するご意見	23. 航空路線網に関するご意見	64 件	
		64 件	
		内訳	(意見の内容)
		41 23	・国際航空路線網の拡充および増便に関するご意見 ・国内航空路線網の拡充および増便に関するご意見
			(主な意見に対する対応見解)
			国際・国内航空路線網の拡充等に引き続き努力してまいります。特に国際路線については、県において実施している沖縄観光の国際化に向けた各種事業を推進するとともに、近隣アジア諸国との新規航空路線の開設に向け関係機関への働きかけに取り組んでまいります。
八、 自衛隊に関するご意見	24. 自衛隊との共同利用などに関するご意見	279 件	
		279 件	
		内訳	(意見の内容)
		189 25 14 13 38	・自衛隊との共同利用見直しに関するご意見 ・民間と自衛隊との使用滑走路（滑走路増設後）を分離すべきとするご意見 ・旅客ターミナルの自衛隊基地側への延伸を求めるご意見 ・安全面について危惧するご意見 ・その他のご意見
			(主な意見に対する対応見解)
			調査においては、今後も自衛隊との共同利用を前提としております。なお、当面は、滑走路増設にかかわらず既存施設の狭隘化解消のため、ターミナル地域を現国内線旅客ターミナルビルの北側へ展開します。しかしながら、滑走路増設後の需要に対応するため更なる拡張を行う必要があり、今後のターミナルの展開については、現在の旅客ターミナルビルの隣接地への展開やターミナルの一部を沖合に展開する場合等について検討・調整を行い、増設滑走路の配置や運用を踏まえ利用者の視点に立ったターミナルの配置を検討していく必要があります。
九、 その他のご意見	25. その他のご意見	838 件	
		838 件	
		内訳	(意見の内容)
		479 230 46 35 29 19	・その他（質問や問い合わせ等）のご意見 ・県政（観光、環境、社会基盤整備など）に関するご意見 ・米軍基地、基地政策に関するご意見 ・現状に対する苦情などに関するご意見 ・沖縄の自然に関するご意見 ・瀬長島の有効活用（公園等として）を求めるご意見
			(主な意見に対する対応見解)
合計		20,951 件	

2. まとめ

(1). 視点毎のP Iステップ3活動の評価

評価の視点	評価
1) P I活動は適切に行われたか	<p>PI 実施計画で予定した活動は全て実施するとともに、ステップ3では新たにコンビニエンスストアなど報告書の設置箇所を増やすとともに、トランジットモールや商業施設等でのオープンハウス（36箇所：ステップ2では8回）や個別団体への説明会等（37回：ステップ2では8回）、全県的に数多く開催する等、幅広く県民が参加できるように活動を充実させている。</p> <p>また、説明会等において家族等周囲への周知についての協力をお願いし、更なる周知に努めたことにより、説明会等に参加された方から更に周囲の方へと情報が伝わったものと推測される。</p>
2) 提供した情報が周知されたか	<p>県内外の約9万3千人の方々に対して、調査報告書を直接提供できた。</p> <p>また、県内主要紙にも、P I活動や情報提供の内容についてステップ1（4回）、2（8回）を大きく上回る20回報道がなされたことから、より広く情報が周知されたと考える。</p>
3) 提供した情報が理解されたか	<p>アンケートについては、ステップ2の約9倍となる12,527人の方から回答が得られており、回答者の9割が、調査報告書の要点について「理解できた」または「ある程度理解できた」と回答している。</p> <p>この結果から、P I活動を通じて提供した情報を受け取った県民等に、調査報告書に提示されたステップ3で共有すべき情報について、概ね理解が得られたものとする。</p>
4) 幅広く意見を収集し、それらへの対応を示しているか	<p>アンケートや説明会等を通じて、ステップ2（982人）を大きく上回る県民等（8,892人）から意見を収集できている。</p> <p>収集した意見数も、ステップ2で収集した数を大きく上回って（約9倍）あり、全ての意見を25項目に分類した上で、各項目毎に意見に対する対応を提示している。</p>

(2). P I活動の総合評価

ステップ1及び2での経験を踏まえ、より効果が高い商業施設等でのオープンハウスや説明会等を箇所・頻度を増やす等、周知・広報活動の強化に努めた結果、幅広いP I対象者の理解が概ね得られた。

この効果もあり、ステップ2を大きく上回る意見を回収し、これらに対する対応を整理できた。

以上から、那覇空港の将来対応方策について情報共有を図るというステップ3の目標は達成できたと考えられる。